

## 第 29 回 愛知県河川整備計画流域委員会 議事抄録

### < 矢作川下流圏域 >

日時：平成 19 年 12 月 17 日（月）10 時 00 分～11 時 35 分

場所：西三河総合庁舎 大会議室（10 階）

#### 1. 開 会

#### 2. 主催者挨拶

#### 3. 委員長挨拶

#### 4. 議 題

##### 1) 矢作川下流圏域河川整備計画（第 2 回）について

#### 5. 質 疑

##### 委員長

最初に、矢作古川の方から、治水、利水、環境に関する現状と課題及び住民のアンケート結果につきまして、御質問、御意見があればお願いをしたい。

##### 委員

パワーポイント資料の 15 ページに地図が三つあるが、真ん中の地図と左側の地図では、発行年数等はこの通りであるが、性質が少し違う図がまざり込んでいる感じがする。

元禄 14 年の西尾市史からとったものは、幕府が元禄 14 年に提出させた元禄国絵図を基にし、恐らく西尾市史の段階では、戦前の愛知県史の第 2 巻に挿入されている写しをもとにした地図だろうと思う。

ところが、明治 10 年の地図では、なくなったはずの矢作古古川の川筋が出ている。今の弓取川という悪水よけになっている川筋が旧矢作古川のもう一つ前の矢作川のはずであるが、この真ん中の地図については、江戸時代の国絵図の相当安易な写しというか、引き写しじゃないかという感じがするので、一度厳密な検討をして頂きたいと思う。

現地調査資料に入っている広田川のパンフレットに用いられているものも、寛保元年の絵図が入っているが、これもやはり本来閉塞されている弓取川、旧矢作古古川が入った絵図である。これについても、三河州地理図鑑は岡崎の山間部の僧侶がつくった絵図であるが、明治 10 年の地図と同じように、元禄 14 年絵図のもう一つ前の正保絵図系の幕府の国絵図が民間に流れ、それをもとにしてつくっている可能性が非常に高いと思う。これらについて資料的には御留意頂きたいと思う。

残念ながら、三河の国の国絵図の研究は進んでおらず、正保国絵図が全く現状と合わなくなっているにもかかわらず、リメイクされて宝暦年間に大阪で出版されているなんていう例もある。基本は元禄 14 年であるが、やはりその後の姿を確認する必要があると思う。

#### 委員

25 ページには流下能力の確保されていないところが赤い線で示してある図が、26 ページには氾濫想定区域が示されている。

25 ページの図は、須美川が合流したところまでが古川流域だと宣言しているが、26 ページの図では、そこから下流、西尾市から吉良町にまたがるところで氾濫被害がある。いわゆる河川の治水能力と流域外の問題（矢作古川の沿川地域の氾濫）についてどんなふうに考えておられるのか、基本的な姿勢についてお話し頂きたいと思う。

#### 事務局

浸水想定区域は、矢作古川の下流、今流域外と言っている部分についても、あるピッチで破堤させて、その氾濫状況を想定して重ね合わせたものである。そういった意味で、流域外ではあるが、下流区域にも氾濫区域が予想されるという状況を示したものである。

現在の矢作古川の流域は、広田川流域と、右岸側については北浜川流域という部分である。矢作古川の下流については周辺から矢作古川に水が入らず、準用河川や普通河川を通じて海に流れてしまう。そのため、水が入ってくる矢作古川の持つ流域とソフト対策の方で示している浸水想定区域が若干異なっているという状況である。

今回のアンケート調査でも、矢作古川が破堤等をした場合には影響があるということで、その想定区域の方の御意見も聞かせて頂いており、そういうことも含めて整備計画をつくっていきたいと考えている。

#### 委員

整備計画でレベルを決め、流域全体でバランスを取ることは非常に重要な考え方である。

例えば、ハザードマップは 1/30 程度の外力で考えられていると思うが、この図では、疎通能力が 1/5 で不足しているところでの氾濫想定はほとんどないように思える。すなわち、広田川の上流の疎通能力のないところでは余り氾濫していない。こういうときに、一体どんなふうに考えたらいいのか。

もう一つは、整備計画レベルを超えるような長期計画、将来計画では氾濫面積が大きいという問題も含めて、この地域をどんなふうに守っていくのか。流域全体を 1/5 で守るのが、氾濫想定が非常に大きなところについては何らかの手を打つのか。

そういうことを河川整備計画としてできるのかできないのか、こういう区域では考え方を整理しておく必要があると思い質問した。

委員

治水の目標が 1/5 なり 1/30 という確率表示になっているが、こういう小さい流域であると、対象とされるのは時間雨量であると思う。1/5 というのは、本来的には雨量で表示されるべき性格のものである。確率であれば、最近年まで入れた確率でないとおかしいが、それについて表現として整理する必要がある。一般的に、分かりやすいのは時間雨量表示ではないかと思うので、併記されるなり、あるいは時間雨量を主体にされるなりされた方が、一般の方には分かりやすいのではなかろうかと思う。

利水であるが、矢作ダムや羽布ダムが取水源となっている。この流域の利水は、山間部であるとため池、そして広田川、鹿乗川、乙川など、地区内の河川が取水源である。足りない場合に、矢作本川の細川頭首工、乙川頭首工、あるいは明治頭首工から取水をし、さらに足りない場合が矢作ダム、羽布ダムとなっている。これらの表現に配慮頂きたい。

頭首工が魚類の障害をしているということであるが、これは何も好き好んで障害をしているわけではなくて、本来、低水分派が本川から矢作古川にあって初めて魚道がつくれるという性格のものであるので、その辺もお考え頂きたいと思う。

委員長

1/5、1/30 という表示については、前にも御意見があったので、やはり時間雨量を併記して頂いた方がいい。これは現状の計画ですけれども、同じ 1/5 でも、近年の雨を入れて、次回恐らく提示される整備計画（案）では、これまでの 1/5 の雨量とは変わる可能性もあるので、それはぜひ時間雨量なりを併記するようにして頂きたい。

委員

43 ページの圏域の水利用に、近年の主な湧水が記載されているが、これは、矢作川本川、矢作ダム系統の節水の話であると思う。この地区では、矢作ダムではなく、細川、羽布ダムの水を利用しているが、そこも水が非常に不足しており、かなり節水をやられている。10 年のうちに 7~8 回節水をやっている状況であるが、それについても併記をしてもらえるといいかと思う。

委員

基本的なことで確認をさせてもらいたい。たくさん書いてある現状と課題に対して、河川整備計画というのは一体どこまで将来計画を立案されるのかを教えてもらいたい。

例えば、矢作古川の課題の1番目には、「河川改修のさらなる推進、過去の洪水」云々と来て、「バランスのとれた治水安全度の向上」というのが矢作古川の大きな課題だという指摘がある。それに対して、整備計画としてはどこまで将来計画を立案するのか。例えば、「河道・遊水地の流量配分の適正な評価・設定」とあるが、この具体的なことはどうか。

もう少し分かりやすく言うと、最後のところに鹿乗川の例があるが、ここには、例えば、「良好な河川環境の基礎となる安定的な流量の確保」ということが課題だと書いてある。それでは、鹿乗川の流量の確保方法まで河川整備計画に盛り込むのかどうか。すぐその下に「環境基準を経年的に満足する水質への改善」というのが課題としてあるが、その改善策をどこまで計画に盛り込むのか。

それらの基本的な考えを教えて頂きたい。私は、他の河川整備計画でも水質や水量のことをお願いしているが、なかなか計画案として出てこないのので、将来計画をどの程度まで整備計画に盛り込みたいと思っているのか披瀝して頂けたらありがたい。

事務局

全体としては河川整備基本方針という将来的な大きな目標があり、それを受ける形で河川整備計画がある。そこで、法律上は20~30年となっているが、概ね30年間の具体的な整備の内容を示すことになる。

治水については、1/5なのか1/10なのかといった当面の整備の目標を立て、それに対して、どのように安全のバランスが取れるのか、30年間という概ねのスパンの中で目標を示していきたいと考えている。

環境については、先ほどの水質や水量の課題の点で、確かに「安定的な流量の確保」とか「水質の改善」となると、具体的に今回の計画の中でどこまで書けるか難しい部分がある。しかし、矢作古川では、本川からの分派量という話もあるので、そういった安定的な流量の目標数値的なものを今回の計画の中で示していきたいと考えている。水質の改善については、河川管理者だけでできる部分と、下水等の他に頼る部分があるので、どこまで具体的に書けるかは難しい部分もあるかと思う。

今回、まずは課題の整理ということで、現況と課題の分析として挙げられるものをすべて挙げさせて頂いている状況である。

委員長

鹿乗川の方につきましても御意見をお願いします。

## 委員

鹿乗川の水質関係は、流域委員会ではほとんど BOD で水質を評価しているが、一部では、トータル窒素やトータル燐についても変化状況や現状のデータを出しているところもあるので、ぜひ T-N も T-P も出して頂きたい。鹿乗川は、昼と夜では溶存酸素が全然違う。確かに昼は高いが、夜は 2 以下になることがそう珍しくない。特に米津橋のあたりである。それぞれの河川の水質の特徴があるので、現況を出して頂くと評価ができると思う。

## 委員

アンケートにもあったように、住民の方たちの関心は、やはり水害である。鹿乗川上流の矢作地区においては、今でも水害の恐れのあるところが随分ある。これに対しては、14km 地点の湛水防除の排水機の機能が発揮されれば大丈夫だろうということを知っている。

現在の矢作地区の整備状況は、JR の鉄橋よりも下流の部分は非常に水害が多く、ちょっとした雨でも冠水をするところであったが、かなり整備された。これは 41 ページにも自然を多く取り入れた場所として写真が出ている。川を広げたことによりこの地区での水害は本当に少なくなって、良かった。ここでは自然ということ扱われているが、水害という面でも、この場所の工事は本当に良かったと地元は感謝している。

ところが、JR よりも上流についてはこういうものが全然ない。どうなるのか。先ほどの 14k 地点の湛水防除の工事が終わったら、果たして大丈夫になるのかどうか。それから、自然ということからいけば、ぜひ JR の下流同様に河川を広げてほしい。問題は、JR の鉄橋が現在ネックになっているのだろうと思うが、JR の鉄橋の改修まで計画の中に盛り込まれているのかどうか。そういうことも非常に地元の者としては関心を持っている。

地元としては、例えば 30 年間の内容を示すにしても、より具体的なものを提示して頂き、今回の整備計画の中に盛り込んで頂けると、地元の者は大変安心をするであろうと思う。

## 事務局

33 ページに現在の改修の経緯を示しているが、JR の下流については全体計画の暫定計画にのっとり 1/5 という改修を進めてきた。しかし、上流での被害等の話もあり、JR の下流部分の緊急河道改修ということで、規模の小さい時間雨量 20mm 相当、確率でいうと約 1/3 で整備を進めてきた。その結果、現地で効果が出ているという状況である。

河川整備計画では、具体的にこの区間はこんな断面でこんな改修をしますというのを図面等も交えて示していく。河川整備計画ができた段階では、各 구간について、どのような規模、断面で今後 30 年間やりますという具体案として示すことができると思う。

JR の部分については、狭窄部であるが、当然 JR の橋梁架け替えとなると、線路を振ってというかなり大規模な工事になるので、果たしてそれが 30 年間でできるのかどうかというのは判断が難しい部分がある。

鉄道サイドとしても、JR の橋梁の老朽化が進んで、早急な架け替えが必要だというようなお話になり、それなりの御負担を頂けて、計画が煮詰まれば 30 年間で架け替えも可能だと思うが、今聞いている段階ではそのような状況にないということである。しかし、そうなった場合にネック部を放っておくのかというと、当然そういうわけにもいかないため、ある規模の雨が安全に流せるような方策をこの計画の中で検討し、断面等を示したいと思っている。

委員

安城市や岡崎市がそれぞれ土地利用計画を作っているが、上流の岡崎の方が比較的宅地を作るような土地利用計画になっていて、下流の安城市は、鉄道沿線のところが宅地開発で、その周辺が農地になっている。参考資料の 22 ページは、流域ということで考えると、同じ図で表現して、特に農地の部分については多少整合性を持たせるような方向で考えて頂いた方がいいのではないかなと思う。

総合計画と調整を取らせるということが書いてあったが、それも課題の一つになると思うので、今後検討して頂きたい。

委員長

氾濫想定区域の土地利用の状況、人口、資産の分布状況についても示して頂きたい。

委員

川を考えると、山と川と海はつながっている。特に、古川の東側には 250m の山地があり、森は降水量、洪水に非常に深くかかわると思うので、そこの植生を挙げて頂きたい。

例えば、矢作川の上流へ行くと、ほとんどヒノキの植林であるので、森の植生も挙げておいて頂きたい。

委員

鹿乗川は、矢作川本川とほぼ並行して流れているが、昔は、矢作川は天井川であり、かなり鹿乗川の方に水が自噴していたと聞いている。今現在はかなり矢作川本川の河床が下がり、逆に鹿乗川の水が矢作川の方に行っているのかなと個人的に思う。その辺の記録が何かあれば、教えて頂きたいと思う。

#### 委員

鹿乗川で緊急水害対策として5年に1度を20mmに置きかえて進んでいくというやり方を整備計画の中でもやれるのか。整備計画の目標で一律的に決めると、その辺がやりにくくなるので、きめ細かく見ていく。浸水想定等を検討しながら小まめにやるのが、このような小流域では必要になってくるのかなという気がした。

鹿乗川のように上流に市街地が展開して下流に農地、水田があるようなときには、必ずしも河道整備が下流から進まなくてもいいのではないかという議論もある。すなわち、浸水想定の中で短時間湛水するような領域を了解してもらいながら、上流の市街地の湛水を防除するというふうな仕組みも考えられるかもしれない。こういう特徴のあるところでは、浸水想定とか過去の浸水実績を見ながら、きめ細かく整備計画を立てられるので、それを一つのこの地域でのあり方として議論することもできるのかなという気がした。

#### 委員

鹿乗川は、32 ページに、平成9年の将来計画では遊水地6カ所と書かれているが、土地の問題で、こういった場所のあてがあるのか。早目に手を打たなければいけないようなところもあるかもしれないので、余り将来とは言っていないのではないか。こういったことが具体的にどうなっているのかも、少し教えて頂きたい。

#### 事務局

全体計画上は6カ所の遊水地であるが、今ある全体計画の中では遊水地には一切手をつけず、河道だけで1/5という計画になっている。それを策定した段階では具体的な用地のあてはないが、鉄道等の工作物でネックとなる箇所もあるので、そういう状況や将来計画も踏まえながら、今回の計画の中で遊水地も含めて検討していきたいと思う。

単純に下流から改修を進めていくと、上流の岡崎市街地に到達するのが遅くなるので、遊水地の適正な設置箇所とか工作物との狭容具合を見ながら、整備計画を示していきたいと思う。

## 6 . 閉 会

(了)